

**「AI社員を採用する」を新常識へ。  
キャスト、自律型AIエージェントの  
新サービスを5月に提供開始予定**

AI×BPaaSを通じて企業の業務変革と生産性向上を実現する株式会社キャスト（本社：東京都千代田区、代表取締役 中川祥太、以下「キャスト」）は、企業の業務を自律的に遂行する新しいAIエージェントサービス「AI社員」の提供に向けた取り組みを開始したことをお知らせします。なお、2026年5月より順次提供開始を予定しております。

本サービスは、「AI社員を1人、組織に加える」という発想で設計された新たなソリューションです。コミュニケーションツール上で「相談・依頼・実行」を自律的に行う複数のAIエージェントが連携し、業務全体を横断的に支援します。



■ 背景：SaaSとAIの普及が生んだ“人力ERP”という構造的課題

近年、業務効率化を目的としたSaaS導入や生成AI活用が進む一方で、企業の現場では以下のような課題が顕在化しています。

- 複数システム間の分断による重複作業
- 未対応タスクの属人化とリマインド業務の増加

- ツールを導入しても運用設計が追いつかない

その結果、本来効率化されるはずのバックオフィス業務は、人が複数のツールや業務フローをつなぎ合わせて運用する“人力ERP”の状態に陥るケースが増加しています。

また、生成AIについても、

- PoC（概念実証・試験導入）で止まる
- 例外処理ができない
- 業務に組み込めない

といった課題により、本格導入に至らない状況が続いています。

こうした中で、企業が求めているのは、単なるツールではなく、業務そのものを完遂できる仕組みです。

## ■ 概要：「AI社員」という新しい労働単位

本サービスは、「AI社員を1人、組織に加える」という発想で設計されたサービスです。

企業は、自社環境のSlackやTeamsなどのコミュニケーションツール上でAI社員に指示を出すだけで、業務の解釈・分解・実行が自律的に行われます。フロントでは1人の「AI社員」と対話しているように見えながら、その背後では、職種ごとの専門AI（サブエージェント）が連携して業務を遂行します。

ここでいう「AI社員」とは、大規模なAIシステムや単一機能のAIエージェントを指すものではありません。複数の機能を統合し、コミュニケーションとアウトプットの双方を担うAIエージェントを「AI社員」と定義しています。

なお、カスタマー社内では現時点で、10体のAI社員が各部門のアシスタントとして稼働しています。

従来の「採用」や「派遣」とは異なる、AIエージェントを“配属する”という新しい業務リソースの確保の形です。



## ■ 特徴・提供価値

### 1. 導入即日稼働する「アシスタントモード」

導入時は、チャットやメールでのコミュニケーション、リサーチ、資料作成などの秘書・アシスタント業務を網羅して提供します。企業側では複雑なプロンプト入力や設定を必要とせず、AI社員に話しかけるだけで業務を開始できます。

### 2. 専門性の高い業務に特化した「プロフェッショナルモード」

企業の業務内容をヒアリングした上で、経理代行や資料作成などに特化したチューニングを施し、特定業務に最適化された「専門AI社員」も提供することが可能です。

これにより、AI社員は単なる業務補助ではなく、実務を担う専任担当者として機能します。

### 3. 常に最新かつ拡張される個社ごとの動作環境

AI技術の進化スピードは極めて速く、自社での追随はコスト増や属人化を招きます。本サービスでは、カスタマーが個社ごとに最適な動作環境を設計し、最新のAIアーキテクチャへ保守・運用することにより、常に最適な状態でAIエージェントを活用することが可能です。

## ■ 今後の展望：バックオフィスを“進化し続ける組織”へ

本サービスは、従来の人材派遣やBPOといった労働供給モデルを拡張し、数兆円規模の派遣市場に対して提示する新たな選択肢です。

これまで企業は、人手不足に対して「採用」または「外注」で対応してきました。今後はそこに、“AIを配属する”という第三の選択肢が加わります。

カスタマーは本サービスを通じて、バックオフィス業務を「人に依存する構造」から「AIによって拡張可能な構造」へと転換し、日本企業の生産性向上に貢献してまいります。

なお、本件が当社の連結業績に与える影響は軽微であります。

※本リリースに記載の内容は現時点での計画に基づくものであり、今後の開発状況等により変更となる可能性があります。

---

< 本件に関する報道関係各位からのお問い合わせ先 >

株式会社カスタマー 広報担当 (pr@cast-er.com)